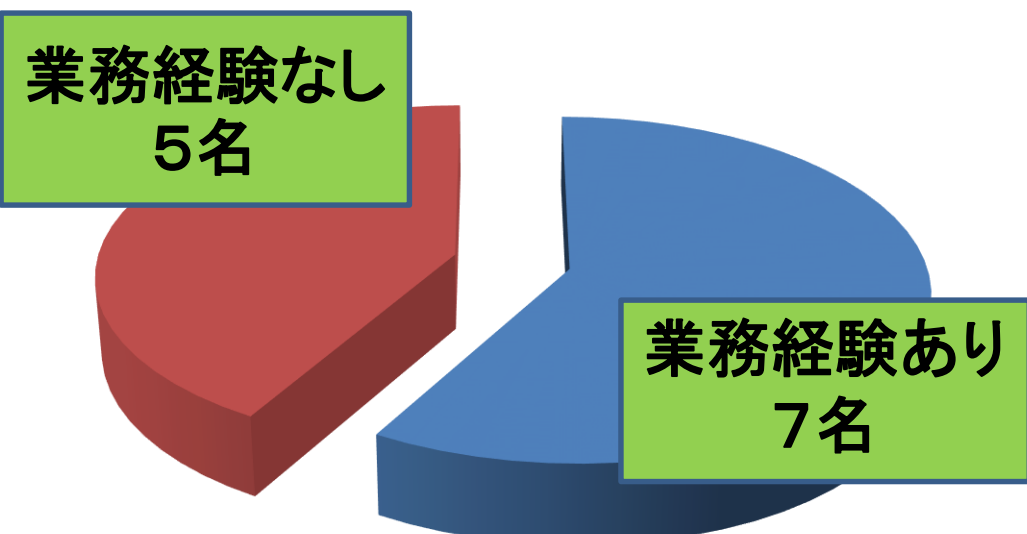




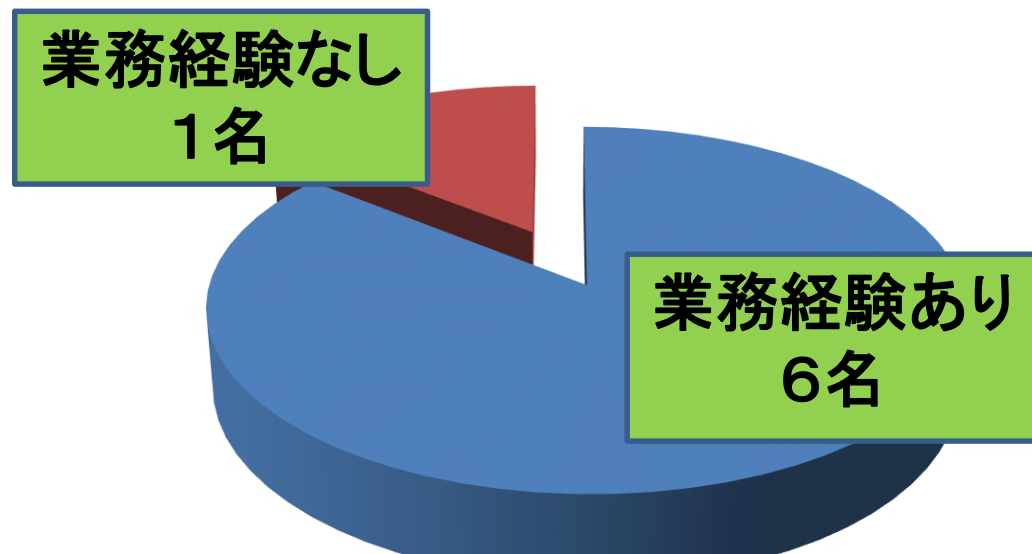
背景

看護師12名



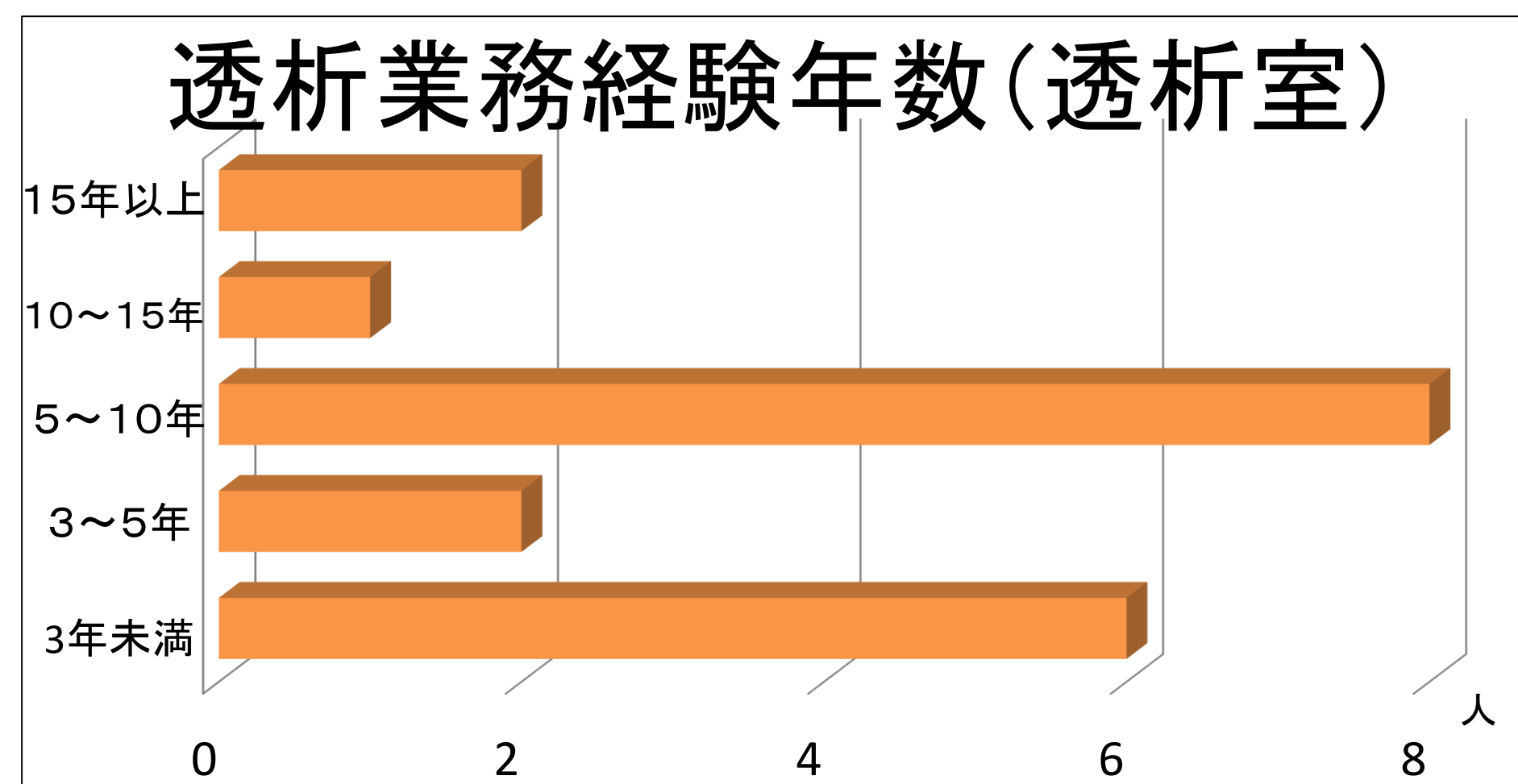
平均経験年数5年

臨床工学技士7名



平均経験年数9年

透析業務経験年数(透析室)



目的

改正・新規マニュアルの運用を検討・実施し、透析室スタッフの技術の統一化と、更なる向上を目的とした活動を行ったので、報告する。

期間・対象・方法

期間:平成27年4月~8月

対象:看護師・臨床工学技士 計19名

方法:業務に関するアンケートを実施、マニュアルを改正・新規作成し、運用を検討・実施した

既存のマニュアルに関するアンケート結果

- ・クリニカルパス形式などのマニュアルが欲しい
- ・未経験者に対する指導項目が不明瞭
- ・現在の業務内容とマニュアルの内容が合っていない
- ・作成されていないマニュアルがある
- ・画像などを取り入れたマニュアルが欲しい

新規作成マニュアル(一部抜粋)

透析業務指導要領を新規作成(入職当日~6ヶ月)

1週目	日付と指導者サイン記入		
項目(シミュレーションでの指導)	見学日	実施日	技術習得日
セッティング			
プライミング			
体重測定			
穿刺前の患者準備			
穿刺介助			

項目	担当	実施日	一人で可 日付・サイン
・回路の組立て(生食回路)	当日の担当者か責任者		
・開始時の採血方法			
・穿刺の介助の手順			
・定時チェックの方法			
・回路組立て(生食回路)	当日の担当者か責任者		
・開始時の採血方法			
・穿刺の介助の手順			
・定時チェックの方法			
・血圧測定	当日の担当者か責任者		
・体重測定の介助			
・回路組立て(生食回路)			
・定時チェックの入力			

指導範囲が、わかりにくい

進行状況が、わかりにくい

クリニカルパス形式を採用

・備考欄の作製
・担当者を決める
・実施日の明確化

改正マニュアル(抜粋)

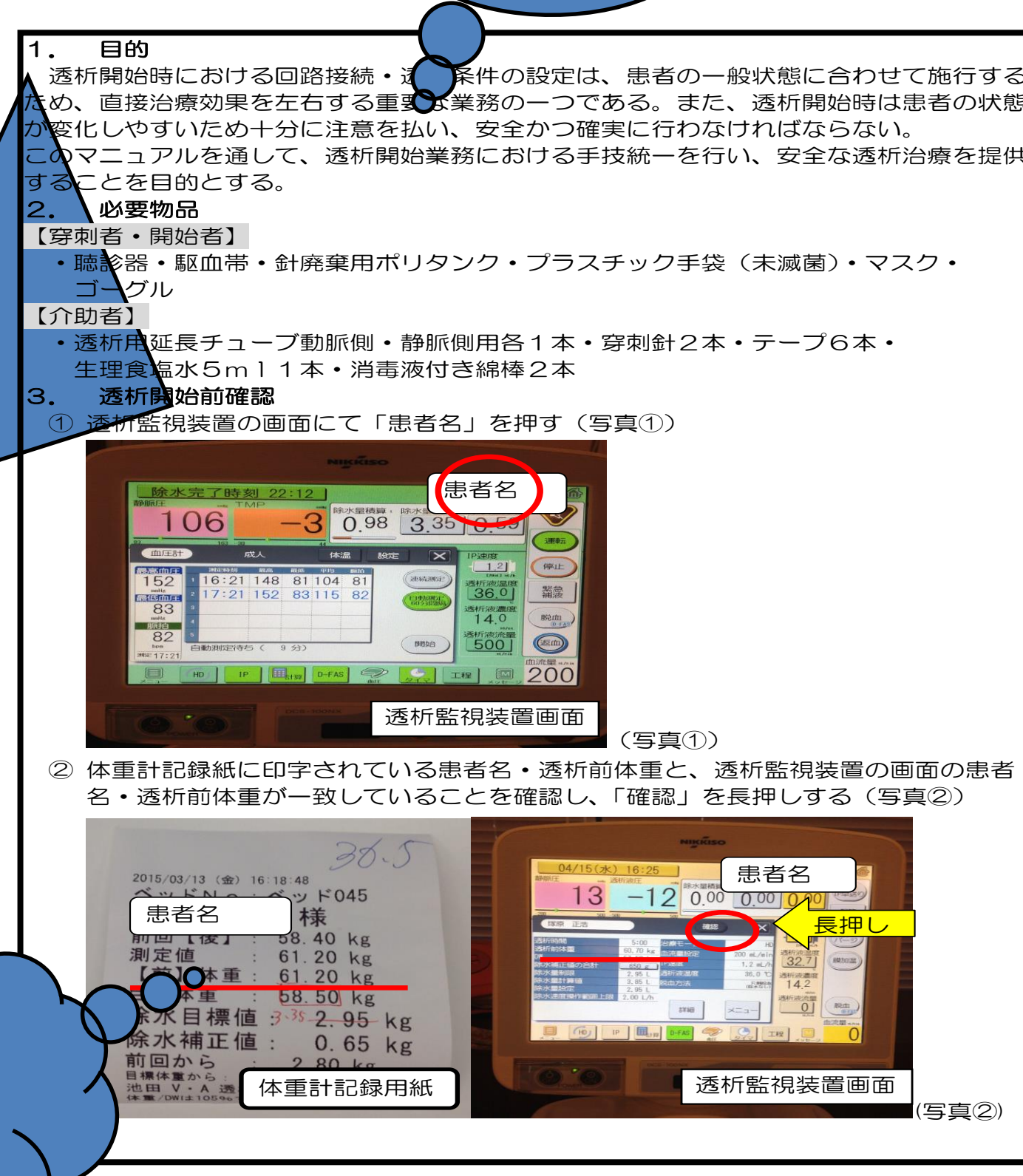
透析開始時マニュアル

- 目的
透析開始時における回路接続・透析条件の設定は、患者の一般状態に合わせて実施するため、直接治療効果を左右する重要な業務の一つである。また、透析開始時は患者の状態が変化しやすいため十分に注意を払い、安全かつ確実に行わなければならない。このマニュアルを通して、透析開始業務における手技統一を行い、安全な透析治療を提供することを目的とする。
- 必要物品
・聴診器
・駆血帯
・針薬液用ポリタンク
・プラスチック手袋
- 透析開始前確認
① 透析監視装置の画面にて患者名を選択する。
② 体重計記録紙に印字されている患者名・透析前体重と画面の患者名・透析前体重が一致していることを確認し、「確認」ボタンを押す。
③ 再度患者名を選択し、「チェック」にてすべての項目がチェックされていることを確認する。
- 穿刺準備
① バスキュラーアクセス(VA)の状態(腫脹、狭窄、発赤など)を確認する。
② VA流音(強弱、狭窄音、拍動音など)を確認する。
③ VAに異常がないことを確認後、グリーンシートを敷く。
- 穿刺
① 患者と穿刺部位の確認をする。
② 静脈側(V側)穿刺部位へ消毒し、駆血する。
③ 穿刺し逆血を確認後、外筒を進め、駆血帯を緩める。
④ 内筒を少し引き、外筒先端を押しやる。
⑤ シリンジにて、逆血がないことを確認しながら内筒を抜去する。
⑥ V側エクステンションチューブを接続する。
⑦ 血管とチューブの接続に注意し、固定テープを一枚貼る。
⑧ チューブのキャップを、クラップを開く。

・新しい業務内容を追加
・透析監視装置別に編集

文章だけで説明されていて、わかりづらい

画像を採用



新規作成・改正したマニュアルの運用後のアンケート結果

- ・マニュアルに画像を採用したことで、手技の内容がわかりやすくなった
- ・クリニカルパス形式を採用したことで、進行状況が明確になり、統一した内容で指導が行えるようになった
- ・指導者の負担は変わらず、技術毎に担当者を決めるなどの改善が必要

考察

- ・クリニカルパス形式で新規指導マニュアルを作成したことで、スケジュール表を利用して、指導内容を最適化できたことにより、進行状況が把握できるようになったと考えられる。
- ・実際の装置や使用物品の画像を取り入れることにより、紙面上での反復学習が容易に出来るようになったと考えられる。

